

授業科目：保育の心理学（1年生前期／講義科目／卒業必修）

到達目標：

- ・保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を習得することができる。
- ・子どもの心身発達について基礎知識を学び、養護および教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深めることができる。
- ・生涯発達の観点から、発達の過程や乳幼児期の位置づけを理解し、保育における人との相互的関わりや環境との関連を考察することができる。

	内容・項目	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
知識・理解	子どもの心身発達に関する基礎知識の理解	乳幼児期の運動面、言語面、情緒面、認知面の発達過程について、大半の発達の特徴を明確に説明することができ、それぞれの相互的関連についても理解している。さらにライフステージごとの発達の特徴をとらえることができる。	乳幼児期の運動面、言語面、情緒面、認知面の発達過程について、大半の発達の特徴をある程度明確に説明することができ、ライフステージごとの発達の特徴をとらえることができる。	乳幼児期の運動面、言語面、情緒面、認知面の発達過程について、発達の特徴に関する説明が十分でなく、ライフステージごとの発達の特徴をとらえることが部分的にとどまっている。	乳幼児期の運動面、言語面、情緒面、認知面の発達過程について、発達の特徴に関する説明がほとんどあるいは全くできない。
	保育実践に関連する心理学の専門的知識の理解	生涯発達における乳幼児期の位置づけを理解し、関連する心理学の理論や専門用語等を明確に説明することができる。	生涯発達における乳幼児期の位置づけを理解し、関連する心理学の理論や専門用語等を7割程度は説明することができる。	心理学の理論や専門用語等を少し～半分程度は説明することができる。	心理学の理論や専門用語等を説明することができない。
論理的思考及び探求		・子どもや家族、子育てに関連するトピックを1つ以上挙げている。子どもや家族の心理などの根拠をもとに自身の意見を述べたうえで、現状の問題点や新たな方向性について意見を述べている。 ・適切にレポートが書けている。	・子どもや家族、子育てに関連するトピックを1つ以上挙げている。子どもや家族の心理などの根拠をもとに自身の意見を述べている。 ・概ね適切にレポートを書けている。	・子どもや家族、子育てに関連するトピックを1つは挙げているが、感想が中心になっている。 ・レポートの適切さに欠ける部分が多い。	・子どもや家族、子育てに関連するトピックを1つも挙げていない。あるいは、トピックについての説明にとどまり、自身の意見が述べられていない。 ・レポートとして適切でない。
態度・志向性	授業内参加	適切に自分の役割を把握し、積極的かつ柔軟な態度で講義内容や授業内の議論に参加している。	講義内容や授業内の議論に関心を持ち、積極的に参加している。	講義内容や授業内の議論に関心をもっているが、積極的な参加がむずかしい。	講義内容や授業内の議論に関心が見られず、参加している様子が見られない。
	ふりかえり	講義内容や自身の授業態度に対して、客観的にふりかえることができ、頻繁に積極的な質疑を行う。	講義内容や自身の授業態度に対して、客観的にふりかえることができ、時には質疑を行う。	講義内容や自身の授業態度に対して、客観的にふりかえることが難しく、積極的な質疑を行わない。	ほとんどふりかえりを行わず、質疑を行わない。